

渋沢 栄一 翁

～ 社会福祉の足跡を訪ねて ～



写真は、渋沢栄一アンドロイド（80代）で、2020年に完成しました。
実にリアルで当時を彷彿させるようです。

目 次

CONTENTS

■ ご挨拶	P.2-3
埼玉県知事	大野 元裕
深谷市長	小島 進
全国民生委員児童委員連合会 会長	得能 金市
埼玉県民生委員・児童委員協議会 会長	大谷 富夫
■ 年表	P.4-7
■ 埼玉ゆかりの三偉人・編集後記	P.8



特集「渋沢栄一翁」社会福祉の足跡を訪ねて」の発刊に当たって

埼玉県知事 大野 元裕

本県が誇る偉人、深谷市出身の渋沢栄一翁は、皆様御存知のとおり、多くの企業の設立やその運営に尽力し「日本資本主義の父」と称されました。

その一方で社会福祉事業にも熱心に取り組み、東京養育院の院長を長く務めたほか、全国社会福祉協議会の前身となる中央慈善協会の初代会長となるなど大きな功績を残しました。県内においても、県内初の児童福祉施設である埼玉育児院の経営立て直しや、当時は全国でも珍しかった公共集会施設である埼玉会館の建設にも尽力されています。

大正六年に今日の民生委員制度の先駆けとなる活動が産声を上げ、次第に活発化し、全国に拡大していきました。そして昭和六年に、民生委員の前身である「方面委員」の全国組織「全日本方面委員連盟」が設立されると、渋沢翁はその初代会長に就任しました。

この全国組織の設立をきっかけに方面委員は国の制度として法制化され、現在の民生委員・児童委員制度へとつながっています。

渋沢翁の熱い志は、それぞれ地域において住民に寄り添いながら、献身的に活動されておられる民生委員・児童委員の皆様にしつかりと継承されていることと思います。

現在コロナ禍において活動が制限される中、工夫を凝らし活動を継続されている皆様にとって、このパンフレットが励みとなり、さらに、民生委員活動を広く県民の皆様を知っていただく機会となることを祈念いたします。



特集「渋沢栄一翁」社会福祉の足跡を訪ねて」の発刊に当たって

深谷市長 小島 進

この度は、特集「渋沢栄一翁」社会福祉の足跡を訪ねて」が発行されましたこと、心からお慶び申し上げます。また、貴会会員の皆さまには、日頃から地域福祉のためご尽力いただいており、深い敬意を表する次第であります。

さて、今回特集に取り上げられました埼玉県深谷市の偉人、渋沢栄一翁は福祉分野においても多大な功績を残しており、その功績のひとつには「民生委員・児童委員制度」があります。

栄一翁は『忠恕（真心と思いやり）は処世の根本』とし、論語にある『忠恕』という考え方を大切にしていました。100年を超える長きに渡り民生委員制度が継続しているのは、歴代委員の皆さまが『忠恕』の精神に基づき、生活支援を必要とする方々の課題を真摯に受け止め、地域の相談役、そして、行政とのつなぎ役としての役目を果たした賜物であると思います。

実業家として注目されることが多い栄一翁ですが、ぜひ、多くの方にパンフレットをご覧いただき、栄一翁が社会福祉活動に尽くした側面、そして貴会の活動の原点ともいえる『忠恕』の精神にも触れていただく機会となれば幸いです。最後に貴会の益々のご発展を祈念いたしまして、巻頭の挨拶とさせていただきます。



特集「渋沢栄一翁と社会福祉の足跡を訪ねて」の発刊に当たって

全国民生委員児童委員連合会
会長 得能 金市

渋沢栄一翁の特集号を発行するとうかがい、まことに意義深く受けとめております。方面委員と社会福祉の黎明に深く携わった渋沢翁は、全国民生委員児童委員連合会の前身である全日本方面委員連盟の初代会長で、昭和7年3月の連盟発会式は渋沢邸である飛鳥山の暖依村荘で執り行われました。前年11月に長逝した翁は立ち会うことが叶いませんでしたが、この時発表した宣言には「相励まして、社会奉仕の精神を昂揚し」とあり、現在の民生委員法につながる至誠のことばを見ることが出来ます。

さて、渋沢翁を語る時に欠かせない史実のひとつが、昭和初期に制定公布された救護法の早期施行に奔走されたことです。貧にあえぐ国民が増す昭和初期の世情にあつて、法公布後、財政難を理由に見通しが立たなかった救護法の施行を求め全国の方面委員が立ち上がり、各地で実施促進運動を展開しました。療養中の渋沢翁も内務大臣や大蔵大臣に陳情するなど尽力し、関係者の念願かなって施行にこぎつけたのは翁の逝去の2か月後でした。

遡って、渋沢翁は大蔵省を辞官したのち救貧・保護施設であった養育院の運営に加わり、かつて幕臣として滞在したフランスの施設との落差に思いを致し事業の拡充に努めました。その間、翁の考えは、救うべき人を助ける「救貧」から、救うべき人をなくす社会を目指す「防貧」に変わったといえます。

時を経ていま全国に、支えあいつながりあつて声をかけあう地域をつくろうと活動する民生委員・児童委員の仲間がいます。本号の編纂発行に力を尽くされた関係各位に敬意と感謝を捧げます。



特集「渋沢栄一翁と社会福祉の足跡を訪ねて」の発刊に当たって

一般財団法人埼玉県民生委員児童委員協議会
会長 大谷 富夫

武蔵一宮から戌亥へ十三里、武蔵国榛沢郡血洗島村はありました。

1840年3月16日渋沢栄一翁が産声を上げたのは遡る事180年余り前であります。

近代日本史に大きな足跡を残し、日本の経済制度の礎を確立した一人にほかならず、その社会活動の功績の一端は思いやりの精神であり、我々が今日迄受け継いでいる社会福祉活動の根底に正にあります。翁の何人にも変らぬ情愛の手と救済の手により抱く心の大切さを感じずにはいられなく、村々の発展、郡の発展さらには国の発展、集う民の発展は生き延びる知恵を生み共生に形を変え現在に至っています。

今我々が享受する民生委員・児童委員は渋沢栄一翁心の子孫と自負してはばかりません。

人の難儀を見逃せない人情の厚さ、ひとごとを自分事に受け止める道徳観の意識、ひたすら表舞台から離れた振る舞い、常に相手の目線での物言い等。社会全体の心の豊かさまでも翁の思想を受け継ぐ先人たちは、培った日々の蓄積を令和の時代にも息づかせています。

民生委員・児童委員の道を歩む時、慈悲の心を研ぎ澄ませ徳を積ませてもらえるありがたさを感じつつ此れからも歩を進めて行きたいと思っています。

末筆ながらこの度の発刊に執筆頂いた大野元裕埼玉県知事小島進深谷市長得能金市全国民生委員児童委員連合会会長の皆様衷心より御礼を申し上げます。ありがとうございました。

1870	1869	1868	1867	1866	1864	1863	1858	1854	1847	1840
明治3年	明治2年	明治元年	慶応3年	慶応2年	元治元年	文久3年	安政5年	安政元年	弘化4年	天保11年
30歳	29歳	28歳	27歳	26歳	24歳	23歳	18歳	14歳	7歳	0歳
官営富岡製糸場設置主任となる。	静岡藩で商法会所を設立。大隈重信の説得を受けて明治政府に仕え、民部省租税正を任じられる。	明治維新のため、徳川昭武と共に帰国し、静岡で徳川慶喜に面会する。	將軍徳川慶喜の弟昭武に従いフランスのパリ万博に随行する。  フランス滞在中の栄一翁	徳川慶喜が征夷大將軍となり、幕臣となる。	一橋家の用人平岡四郎から勧められ、渋沢喜作と共に一橋家に仕官する。	高崎城乗っ取り、横浜外国商館焼き打ちを計画するが、尾高長七郎（惇忠の弟）の説得により中止し、渋沢喜作（従兄）と共に京に向かう。	尾高惇忠の妹、千代と結婚する。	家業の畑作、養蚕、藍玉製造に励む。	下手計村の尾高惇忠（従兄）から論語などの漢籍を学び始める。	天保十一年二月十三日（一八四〇・三・十六）、武蔵国榛沢郡血洗島村（現深谷市血洗島）に市郎右衛門、えいの子として誕生。

「中の家」（なかんち）

血洗島村は畑作中心で、江戸末期から明治期は藍栽培が盛んな土地でした。渋沢栄一翁の生家「中の家」は、血洗島村にある渋沢一族の中でも本家筋にあたり、父親の市郎右衛門は村一番の富農と言われた「東の家（ひがしんち）」から養子に入り、衰退していた「中の家」の家勢を養蚕・藍玉の製造販売・雑貨業・質屋業などで盛り返し、「東の家」に次ぐ富農と言われるまでになりました。

現在残る「中の家」の主屋は、典型的な養蚕農家で、妹夫妻により明治28年（1895）に建てられました。栄一翁が帰郷して滞在したのは、一番西側（写真の一番奥）の上座敷で、この部屋には2階部分がありません。2階で、蚕が桑の葉を食べる音を気にせずくつろげるようにという、妹夫妻の栄一翁への気遣いだそうです。



中の家・主屋



中の家・土蔵Ⅱ

》尾高家との強い繋がり

父親の姉「やへ」の嫁ぎ先である尾高家とは強い繋がりがあります。7歳の幼い頃から、尾高勝五郎と「やへ」の長男の尾高惇忠から論語の手ほどきを受けたことが、思想の源流となっています。尾高惇忠の妹千代は、栄一翁の妻となり、千代の弟平九郎はパリ万博への洋行の際に栄一翁の見立て養子となりました。

渋沢栄一翁の雅号である「青淵」は、従兄であり論語の師でもある尾高惇忠によりつけられたものです。



尾高惇忠

》血洗島（ちらいじま）の由来

血洗島、たいへんインパクトのある地名です。その由来には源義家合戦説やアイヌ語源説など諸説ありますが利根川の氾濫により「地が荒れた」、「川が地を洗うように流れた」と言われる説が最も説得力があるのではないのでしょうか。



現在の血洗島地域



藍の花

1901	1900	1890	1888	1885	1883	1882	1880	1878	1875	1874	1873
明治34年	明治33年	明治23年	明治21年	明治18年	明治16年	明治15年	明治13年	明治11年	明治8年	明治7年	明治6年
61歳	60歳	50歳	48歳	45歳	43歳	42歳	40歳	38歳	35歳	34歳	33歳
日本女子大学校が開校され、会計監督となる。  日本女子大学校長就任挨拶[1931(昭和6年)]	男爵を授けられる。	貴族院議員に任ぜられる。	上敷免村(現深谷市上敷免)に日本煉瓦製造会社の工場開業。	東京府の経営廃止の決定により、養育院の存続に努力する。	伊藤兼子を妻に迎える。	妻千代死去。	博愛社(後の日本赤十字社)が創立され、創設者の佐野常民の依頼により、社員となる。	東京商法会議所(後の東京商工会議所)が設立され、初代会頭となる。	第一国立銀行頭取となる。 商法講習所(後の一橋大学)が創立され、経営委員となる。	養育院(現・東京都健康長寿医療センター)の運営に関わり始める。	井上馨と共に財政基礎の確立を訴えるが聞き入れられず、大蔵省を辞任した。第一国立銀行を設立し、総監役となる。

》養育院

養育院は東京の生活困窮者、病者、孤児、老人、障がい者を保護する公的福祉施設として、明治5年(1872)に設立されました。

養育院設立初期に救助資金として利用されたのが、松平定信が定めた江戸の貧民救済資金「七分積金」です。その七分積金(営繕会議所共有金)の管理をしていたのが渋沢栄一翁で、明治7年(1874)から養育院の運営に関わり始め、明治9年(1876)に養育院事務長に任命されました。明治23年(1890)に東京市営となり、渋沢栄一翁が養育院長に就任、その後91歳で亡くなるまでの約半世紀近く養育院長を務めました。

養育院は昭和61年(1986)に東京都老人医療センターに改称された後、平成21年(2009)に現在の東京都健康長寿医療センターとなりました。



渋沢史料館所蔵
板橋本院 病室にて



渋沢史料館所蔵
東京市養育院安房分院磨崖碑竣工式(大正6年6月8日)



©東京都健康長寿医療センター

東京都健康長寿医療センターの敷地内に建つ銅像。1925年に制作され、除幕式には栄一翁本人も出席しました。



渋沢史料館所蔵
安房分院 収容児童たち

》博愛社(日本赤十字社)

大実業家 渋沢栄一翁は日本赤十字社の前身である博愛社の支援者でした。慶応3年のパリ万博での仲間であった、博愛社の創設者である佐野常民が渋沢栄一翁に直接協力を依頼しました。渋沢栄一翁は明治13年に日赤の社員(会員)に加入し、その後、常議員(理事)になり、日本赤十字社の発展に大きく貢献しました。



©日本赤十字社

赤十字のはじまりとされる西南戦争の博愛社

1923	1921	1920	1919	1918	1916	1914	1913	1909	1908	1902
大正12年	大正10年	大正9年	大正8年	大正7年	大正5年	大正3年	大正2年	明治42年	明治41年	明治35年
83歳	81歳	80歳	79歳	78歳	76歳	74歳	73歳	69歳	68歳	62歳
関東大震災が起こり大震災善後会副会長となる。	ワシントン軍縮会議の視察をかねて渡米し、平和外交を促進する。	社団法人国際聯盟協会が創立され、会長となる。子爵を授けられる。	福利委員（後の民生委員）の設置母体となる財団法人 埼玉共済会 の設立に協力、顧問に就任。	明治維新における旧主君・徳川慶喜の真意を後世に正しく伝えたい思いで「徳川慶喜公伝」を竜門社から刊行した。	「論語と算盤」が発行される。	第一銀行の頭取等を辞め実業界から引退、社会公共事業に尽力する。	中日実業株式会社の創立を機に中国を視察し、親善につとめる。	渡米実業団の団長としてアメリカに渡る。	中央慈善協会（後の全国社会福祉協議会）が設立され、会長に就任する。	アメリカ及びヨーロッパを兼子夫人と共に訪問し、国際親善につとめる。 埼玉学生誘掖会（本多静六博士が発起人） 設立、初代会頭となる。

》埼玉学生誘掖会

現在も公益財団法人埼玉学生誘掖会として、埼玉県人や埼玉出身者の子弟で、東京都内や近郊の大学に在学する有為な学生に対する奨学援助を行う組織ですが、その設立にも渋沢栄一翁が大きく関与しています。

初め渋沢栄一翁はあまり乗り気ではありませんでしたが、本多静六博士（わが国最初の林学博士）が腹巻から年収の三分の一にあたる300円を差出され、その誠意を強く感じて支援を約束しました。

》本多 静六

1866（慶応2）年 埼玉県久喜市に生まれ東京の日比谷公園や明治神宮神苑など多くの公園設計に携わり「日本の公園の父」と呼ばれています。また、月給4分の1天引き貯金という独自の蓄財投資法を実践して莫大な財産を築いた。

》埼玉共済会

埼玉県の社会福祉事業推進のため、大正8年4月に当時の埼玉県知事岡田忠彦の主唱により、渋沢栄一翁などが協力して埼玉共済会が設立されました。大正8年10月に現在の民生委員・児童委員制度のさきがけとなる福利委員制度を創設し事業として展開しました。その後、福利委員は昭和6年12月に方面委員として埼玉県に移管されることになります。

現在は社会福祉法人埼玉県共済会として、養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、地域包括支援センターなど、各種の高齢者福祉の拠点となり、令和元年に法人創立100周年を迎えました。

》埼玉育児院

明治天皇聖徳記念事業として、大正元年（1912）に比企郡菅谷村（現嵐山町）の天台宗安養寺住職・小島乗真師が、埼玉県初の児童福祉施設として開いた積徳育児院が始まりで、大正4年（1915）に埼玉育児院と改称されました。

経営難に陥った小島乗真師から相談を受けた発智庄平は、渋沢栄一翁の協力を取り付け、大正7年（1918）に埼玉育児院を社団法人化して引き継ぎ、院長に就任しました。一時、比企郡松山町（現東松山市）に移転し、昭和2年（1927）に霞ヶ関村笠幡（現川越市）の自宅離れ、さらに翌年、現在地（霞ヶ関カンツリー倶楽部の隣接地）に移転しました。平成24年（2012）に同地で社会福祉法人埼玉育児院として、創立100周年を迎えました。

》道徳経済合一説

著書「論語と算盤」の中で「論語と算盤は甚だ遠くして甚だ近いもの」、「正しい道理の富でなければ、その富は完全に永続することができぬ」と述べられています。その実現のためには「士魂商才」、つまり武士的精神（道徳）だけでなく、商才（経済）も併せて必要との考えです。

渋沢栄一翁の実業家としての根本理念は、道徳・道義であり、手段を選ばずに営利を追求することなく、公共の利益を追求したフェアプレーでの経済活動を実践しました。



渋沢栄一アンドロイド(70代)

2024	2021	1931	1929	1927	1926
令和6年	令和3年	昭和6年	昭和4年	昭和2年	大正15年
		91歳	89歳	87歳	86歳
新一万円紙幣の発行予定（渋沢栄一翁の肖像）。	NHKの大河ドラマ「青天を衝け」放送。	十一月十一日飛鳥山の自邸で永眠する。 中央盲人福祉協会が創立され、会長となる。 救護法実施決定を祝う全国方面委員代表者会議で、全国組織結成の覚書が発表された。「全日本方面委員連盟（全国民生委員児童委員連合会の前身）」が設立され、初代会長に就任した。渋沢栄一翁は、病氣療養中にもかかわらず、内務大臣や大蔵大臣（当時）へ陳情を行うなど、救護法実施に尽力した。 ©全国民生委員児童委員連合会 全民児連 応接室にある肖像画	中央盲人福祉協会が創立され、会長となる。 救護法実施決定を祝う全国方面委員代表者会議で、全国組織結成の覚書が発表された。「全日本方面委員連盟（全国民生委員児童委員連合会の前身）」が設立され、初代会長に就任した。渋沢栄一翁は、病氣療養中にもかかわらず、内務大臣や大蔵大臣（当時）へ陳情を行うなど、救護法実施に尽力した。 ©全国民生委員児童委員連合会 全民児連 応接室にある肖像画	中央社会事業協会（現全国社会福祉協議会）の企画、主催により、10月21から5日の日程で、全国から方面委員と関係者が600余名集まり、第1回全国方面委員会議は開催された。中央社会事業協会会長の渋沢栄一翁が開会の辞を述べられた。 全国的な組織の設置や方面委員制度の法制化について建議することなどが決議され、救護法実施促進運動の基礎となった。 ©全国民生委員児童委員連合会 第1回全国方面委員会議で演説する渋沢栄一翁	摂政裕仁親王（昭和天皇）の御成婚記念埼玉会館建設への寄付。（一九六六年に現在の埼玉会館に建替え） 日本国際児童親善会長として、アメリカの宣教師シドニー・ルイス・ギューリックと協力して日米の人形の交換につとめる。

》八基小学校をギューリック3世が訪問

生誕地「中の家」から東に約500mの所に深谷市立八基小学校があります。渋沢栄一翁の長女の穂積歌子作詞の校歌は、県内でも古く歴史があります。令和元年5月、渋沢栄一翁と共に日米の人形交換に尽力されたシドニー・ルイス・ギューリック氏の孫のギューリック3世が同校を訪問され、深い絆を感じます。

令和元年度に「おお、栄一翁」という歌を当時の4年生が作詞されていますように、小学生も「栄一翁」と敬称を付け、「郷土の偉人」として深く広く親しまれています。校庭の花壇には地域ゆかりの藍が植えられ、藍染めを授業に取り入れているそうです。

学校名の「八基」は旧村名の名称で、渋沢栄一翁が名付けられました。



青い目の人形（校長室）



法沢史料館所蔵
答礼人形の送別会

》新一万円札

渋沢栄一翁は、過去に紙幣の候補となりましたが、髭がなく、偽札防止の観点から実現されませんでした。技術の進歩による新たな偽札防止対策が可能となり、満を持しての登場となりました。

最新の3次元（3D）技術によるホログラムが導入され、渋沢栄一翁の肖像が立体的に表現されます。

埼玉県民児協の誕生

現在の民生委員制度は大正6年岡山県で産声を上げました。埼玉県は大正8年福利委員73名でスタートしました。埼玉県民生委員・児童委員協議会の前身である福利委員制度について、渋沢栄一翁は多大な指導・貢献をされました。

民生委員制度の前身である方面委員制度は昭和3年に全国に普及しました。方面委員活動が活発になるに従い、組織化と法制化が求められました。昭和6年に「全日本方面委員連盟（のちの全国民生委員児童委員連合会）」が設立されると、渋沢栄一翁は初代会長に就任しました。

昭和11年に方面委員制度が法制化され、現在の民生委員制度へとつながっています。

》埼玉会館の建設に渋沢栄一翁が寄付金集めに協力

大正15年摂政裕仁親王（昭和天皇）の御成婚を記念し建設された埼玉会館。建設予算30万円は県費10万円と寄付金20万円。寄付金集めがポイントとなりました。

知事以下関係者が渋沢栄一翁とその事務所にお百度参りしたと伝えられています。渋沢栄一翁が寄付金集めに奔走されました。総額24万円余を集めて貢献されました。



埼玉会館旧館（全景）

埼玉ゆかりの三偉人

渋沢栄一、塙保己一、荻野吟子の3人を「埼玉県ゆかりの三偉人」と呼んでいますが、共に埼玉県北部の出身であることに驚かされます。江戸から遠すぎもせず、近すぎもせずという地理的条件がその要因なのかも知れません。

渋沢栄一が塙保己一の編さんした「群書類従」の版本を残すことに尽力し、荻野吟子は塙保己一の残した資料「令義解（りょうのぎげ）」により、日本初の女医となる道を開くことができました。

塙 保己一



©本庄市

江戸時代中期の延享3年（1746）に武蔵国児玉郡保木野村（現在の本庄市児玉町保木野）に生まれました。

7歳で病気により失明し、15歳で江戸に出て当道座（盲人組織）に入り、検校雨富須賀一の弟子となり、努力と修業を重ねて、晩年には当道座の最高位の総検校へと昇進しました。

保己一は国学者として「群書類従」の編さん、和学講談所の設立と運営、当道座の改革など多くの功績を残しています。中でも「群書類従」の編さんは41年に渡る功績であり、正編666冊は続編とともに現在も日本の文学・歴史等を研究する上で欠かせない重要資料です。

荻野 吟子



©熊谷市

江戸時代末期の嘉永4年（1851）、武蔵国幡羅郡俵瀬村（現埼玉県熊谷市俵瀬）に生まれました。18歳で結婚しましたが、思いがけない病気により2年ほどで離婚しました。この時、婦人科の治療を受けたことから、女性医師の必要性を痛感し、医師となることを決意しました。

しかし、当時、女性には医術開業試験の受験が認められず、制度改正に奔走しました。その際、「令義解」という古文書に女医の記述があることを訴え、認められたとされています。この「令義解」を校訂し、後世に引き継いだのが塙保己一でした。

このように吟子は様々な困難を乗り越え、明治18年（1885）に医術開業試験に合格、日本で最初の公認女性医師となりました。

編集を終えて

広報部会 部会長 寺田 治子

特集「渋沢栄一翁」を刊行しました。時の人となられた埼玉の偉人渋沢栄一翁は、「日本経済の父」と言われていますが、社会福祉や教育にも熱心で、たくさんの社会福祉事業の関わりがありました。

栄一翁が「全日本方面委員連盟」（現・全国民生委員児童委員連合会）の初代会長を務められたことから、社会福祉を中心に編集しました。

作業を進める中で、栄一翁の「人となり」を知りました。常に人のためを第一に、誠実で思いやりのある人柄に感銘を受けました。

時代は変わっても、民生委員・児童委員、主任児童委員は、栄一翁の福祉への心を受け継いでいます。今、コロナ禍で活動の制限がありますが、「温故知新」という言葉があるように、創意工夫し、新しい形での活動に向かうかもしれませんね。天から栄一翁も見守っていると思います。ともに頑張りましょう。

結びに、ご執筆いただいた皆さま、取材にご協力をいただいた皆さまには心より感謝申し上げます。ありがとうございました。